

平成25年度 メディカル講座（後期）

医進類型指定事業の一環として、12月7日（土）に「メディカル講座（後期）」を実施しました。

将来、医療に携わる職業を希望している生徒160名余りが参加し、大変有意義な活動を展開しました。参加人数も昨年より60名増え、地域医療に関する関心も幅広く浸透してきた感があります。

講師には旭川医科大学から坂本尚志先生、井上裕靖先生の両名をお招きし、「これからの地域医療に求められるもの」について講座を行っていただきました。

参加者は、ワークショップを柱に、意見交換、プレゼンテーションの作成、まとめ、発表と互いの理解をより深め合うための探求型学習を実践しました。

最初に、坂本先生から「ワークショップは『体験型の講座』であり、学習者(参加者)が主体となり、自ら体験を積み重ね、互いに学び合う講座であること」と、本日の講座のねらいについてスライドを使ってのわかりやすい説明がありました。



その後、参加者は21のグループに分かれ、各指定の教室でワークショップを行いました。



学校や学年も違う構成メンバーに最初は戸惑いがちでしたが、自己紹介を終え、互いに共通テーマについて語り合ううちに、雰囲気も和らぎ、様々なアイデアや考えが沸き起こり、理解をより深め合うことが出来たようです。

意見はKJ法を用いて抽出、それについて討議を重ね、範疇分け、レベル分けを経て、最終的にグループとしての意見をまとめます。

グループ討議にあたっては、講師の先生以外にも、アドバイザーとして医大の現役生10数名が協力を駆けつけ、各グループワークが円滑に進行するよう、また焦点がぼやけないように助言してくれるなど、参加者にとって大変心強い存在になってくれました。





今回の講座のねらいは、先述のように学習の方法(=問題発見の方法)を学ぶことです。それを意識してか、参加者は積極的に自らの考えを発表し、他者の意見にも真剣に耳を傾けるなど、多角的視野で学んだり創り出したりすることを実践しました。

頭だけでなく心も身体も使い「体験」する作業を積み重ねていくことで、参加者の思考がより膨らんでいくのがわかりました。同時に体験の共有を通して合意形成の必要な共同作業を通して、参加者は自分とは違う多様な価値観を学んだようです。

最後は、2箇所の大教室に分かれ、「これからの地域医療に求められるもの」と題して、グループごとに話し合った内容を全体の前でプレゼンしました。こうして、また他のグループの発表を聞きながら、新たな発見を見出していきます。



プレゼンが終わる度に、講師からは丁寧なコメントが添えられ、発表の中身がより濃密なものとなり、参加者の身体に浸透していったように見受けられました。



今後は、この貴重な体験を日頃の生活全般に生かし、学習のクオリティーを上げるだけでなく心でも感じ、探究精神を忘れることなく、視野を一層広げてくれることを願います。

そして、近い将来、この生徒たちが地域医療を支える中心的役割を担ってくれることを心から期待したいと思います。